

研究主題等 「新たな特別活動の進め方」

I 団体の概要及び研究テーマ

A. 団体の概要

特別活動の特質である「望ましい集団活動」の在り方を問い直し、生徒が困難や苦難を乗り越え、仲間とともに生きる目標と、生きる喜びをもつ「強い心」を育むため、特別活動の在り方を研究する。月例会や研究協議会を通して、都立高等学校教師の特別活動における指導力向上を目指し、ホームルーム経営力、生徒理解力の向上を図ることを内容とする。

B. 研究テーマ

「新たな特別活動の進め方」

平成31年から令和5年4月までCOVID-19によるパンデミックの影響で特別活動が制限された中で、学校は行事の継承を視野に入れながらDXなどを取り入れた新たな学校行事等の構築に取り組んでいる。また、日本の特別活動の良さに着目して海外の初等教育において特別活動を導入している国が増えている。このような状況を踏まえ、月例会、実践発表・研究協議や講演会等を実施することにより、これまで研究を重ねてきた特別活動の指導方法を見直すとともにDX等を取り入れた指導方法と融合する新たな特別活動の在り方・進め方の研究活動を行う。

II 研究テーマに沿って重点的に取り組んだ内容

学習指導要領に定められた特別活動のホームルーム活動・生徒会活動・学校行事の3領域を中心に、都立高等学校の実践的な取組を基に、事例研究を行う。生徒との関わり方や指導方法について、基調提案・実践報告・講演等を通して、教師同士が学び合う場を設ける。

今年度は特別活動で育成を目指す資質・能力である、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」という三つの視点を手がかりとして、発表者による実践報告を基に、参加者による情報共有や、所属校で指導に活かせる方法を研究協議することを重点的に取り組んだ。特に、多くの初任者に参加いただき、「ホームルーム担任やそれ以外でも特別活動を通して生徒の資質・能力をいかに育むか」等の意見交換を行った。



Ⅲ 研究の内容、成果、課題

A. 研究の内容

- ① 第1回研究協議会《7月4日（金）都立世田谷泉高等学校》
 基調提案 「ホームルーム担任の仕事 1日1年」
 実践報告 「教員1年目の挑戦と失敗」
 ～ギャップに苦しんだ1年目～
- ②第2回研究協議会《10月14日（火）都立世田谷泉高等学校》
 実践報告①「初めてのHR担任（都立新宿高校）を振り返って」
 実践報告②「学校行事を通じたHR運営 ～中高一貫校の取組から～」
- ② 東京都教職員研修センターとの連携研修（10月6日（月））
 （令和7年度専門性向上研修）
 テーマ 「特別活動における一人1台の学習者用端末を用いた
 授業の事例について」
 内 容 「模擬授業体験を基に授業デザインを考える」

B. 成果

第1回は約50名、第2回は約40名の教員等の参加があった。特に初任者の参加が多く、特別活動の実践を基に、他校の事例や工夫、生徒との関わり方を学ぶことができた。また発表後は、参加者同士の有意義な研究協議となった。

C. 課題

参加者のアンケートによると、次年度に担任を持ちたい初任者が多い傾向にあるため、経験豊富な教員の参加者を増加する工夫が必要である。また、新たな特別活動の進め方をさらに研究・協議する必要がある。

Ⅳ 今後の活動予定

- 第3回研究協議会《1月16日（金）都立世田谷泉高等学校》
 （第40回東京都高等学校特別活動研究協議大）
 研究報告「テーマ 未定」
- 3月研究協議会《3月4日（水）都立世田谷泉高等学校》
 次年度のホームルーム担任となる教員向けの研究会を開催する予定である。
- 研究紀要 第61号（令和8年3月）を発行予定である。



＜令和7年度連絡先＞

団体名		東京都高等学校特別活動研究会	
代表者	所属	東京都立世田谷泉高等学校	
	職 氏名	統括校長 森田 常次	
	連絡先	03-3300-6131	
事務局	所属	東京都立三鷹中等教育学校	
	職 氏名	主幹教諭 高田 直人	
	連絡先	0422-46-4181	
団体ホームページ	URL	https://tokkatsu.com/	
	二次元コード		